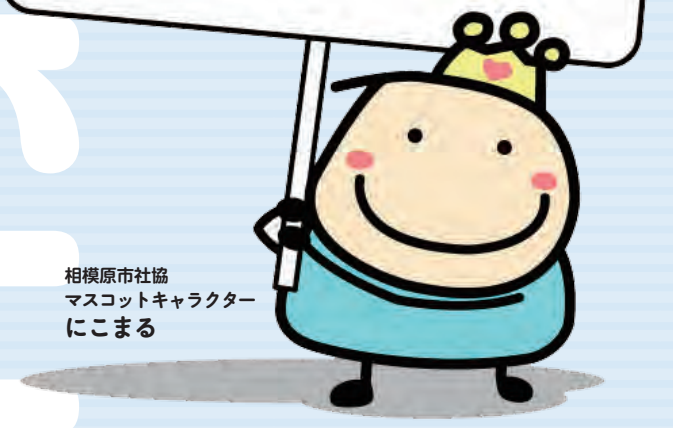


つ
つ
つ
た
な
ど
え
が
う
る
る
る

福祉 コミュニティ 形成事業

3つのTが
地域に根付く花が咲く！
楽しく「ふくし」でまちづくり



相模原市社協
マスコットキャラクター
にこまる

【福祉コミュニティ形成事業に関するお問い合わせ】
社会福祉法人相模原市社会福祉協議会
福祉推進課 地域支援係
〒252-0236 神奈川県相模原市中央区富士見6丁目1番20号
電話 042-704-6275 FAX 042-759-4382
市社協ホームページ <http://www.sagamiharashishakyo.or.jp/>

みんないいひと

令和3年3月発行

目次

contents

●ごあいさつ	2
●はじめに	4
●なんで根付くの？	6
●日頃からの「地域の横のつながり」を強め、問題を事前に解決、予防しましょう！	7
●つどう／つながる／つたえる 3つのT	8
●各地区の取り組み	
橋本 住民のつながりと支えあう活動拠点“ふれあいの家「ぬくもり」”	10
大沢 小地域で地域住民が交流できる場づくり	12
城山 交流・仲間づくりの場の充実・助けあい支えあいのまちづくり	14
津久井 見守り事業〈あんしん袋〉・サロン推進事業	16
相模湖 「つながり」という「強み」を活かして	18
藤野 藤野地域の良さを大切にしたい“おたがいさま”のまちづくり	20
小山 住民同士が支えあい安心して暮らせる地域づくり	22
清新 地域住民の参加と支えあいによる福祉のまちづくり ～ちょこっとボランティアくらぶ～	24
横山 横山地区の交流と活動の拠点	26
中央 三世代・心でつながる街	28
星が丘 たくさんの笑顔があふれる 地域の輪	30
光が丘 生活のちょっとしたお困りごとのお手伝い 光が丘サポート隊 お食事をとおして集える居場所 にぎわい処	32
大野北 はやぶさカフェ大野北	34
田名 地域住民による支えあいの仕組み「田名ボランティアセンター」	36
上溝 だれでも“ぶらっと”立ち寄れる交流の家 ぶらっと上溝	38
大野中 おおのなかボランティアセンター	40
大野南 住民福祉活動の拠点づくり	42
麻溝 ボランティアセンターあさみぞ	44
新磯 安心して暮らせるまち「あらいそ」	46
相模台 サポートセンター楽しく	48
相武台 広げる地域の絆 ～支え合い(愛)相武台の見守り活動～ だれもが集える拠点 ～ひだまり相武台～	50
東林 暮らしやすい地域社会をめざして	52
●ICTを活用した新たな地域のつながりづくり	54
●おわりに	56

ごあいさつ

社会福祉法人相模原市社会福祉協議会
会長 戸塚 英明

第4期相模原市地域福祉計画及び第9次相模原市社会福祉協議会地域福祉活動計画にも位置づけられている「福祉コミュニティ形成事業」の取組は、平成18年度以来、各地区社協を中心に、サロン活動や地区ボランティアセンターの運営など多様な小地域の支えあい活動を生み出してきました。

活動の推進に当たっては、住民の身近な地域において、住民自らが地域にある「困りごと」を把握し、地区社協の構成員だけでなく、様々な関係者と共に組織される「地域福祉推進会議」等を通じて、「困りごと」の解決に向けた取組みの検討、実践を展開するなど、多様な住民や社会資源との「つながり」も作りだしてきました。

今回は、関係者の皆さんに福祉コミュニティ形成事業についてより一層の御理解をいただき、これからもよりよい地域づくりのために伴走するパートナーとして連携を深めていきたいと考え作成したものです。

今後も、「みんなで支えあい 地域の力が育む 人にやさしいまち さがみはら」の実現に向けて、皆さんとともに歩みを進めてまいりたいと考えておりますので、御協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

相模原市地区社会福祉協議会
会長 今井 俊昭

わたくしどもは福祉コミュニティ形成事業の取組みを通じて、地域の住民同士また地域につながる社会資源がつながり、様々な支えあい活動を展開して参りました。

それぞれの地区が自分たちで困りごとを発見・共有し、解決に向けて地域住民が一丸となって取り組むため、活動のたびに絆が深まったり新たな課題が生まれたりしています。

こうした中、今では22のすべての地区が活動をはじめから数年経過しており、改めて活動を振り返ることとなりました。また新型コロナウイルス感染症が拡大し、活動の休止・縮小など、これまでに振り返るきっかけでもあると考えております。この振り返りを通じて、更なる地域の活性化に、今後の未来に、つながることを心から祈っております。

最後になりましたが、地域の皆様には本事業に対してのご理解・ご支援を賜り、心より感謝申し上げます。今後とも引き続き、活発な活動を進めて頂き、相模原市をより一層住みやすい地域へとつなげていければと願います。



はじめに

新型コロナウイルス感染症の拡大により、私たちの生活様式には大きな変化がありました。福祉コミュニティ形成事業もまた、大きな影響を受け、活動自体も中止となることも多くありました。そんななか、コロナ禍であってもできることを考え活動したり、活動に向けて準備をはじめたりと少しずつ動き始めています。このまま福祉コミュニティ形成事業の取り組みを続けるためには何が必要でしょうか。何ができるでしょうか。

これまでも時代の変化や社会状況に応じて今できることを常に考え、様々な活動を取り組んできた相模原市だからこそ、今あらためて、この機会に活動の様子を振り返り、よりよい地域活動に繋がればと願います。

またどのような状況下にあっても、福祉コミュニティ形成事業に携わる方向士が協力し合い、新たな担い手育成をしながら、地域みんなで支えあい安心して暮らせる地域を作っていけることを期待しています。

福祉コミュニティ形成事業とは

住民同士で地域の福祉課題（困りごと）を発見、共有し、アイデアを出し合いながら解決に向けた仕組み作りを検討し、そして実践する事業です。福祉課題や取り組む事業は地域によって様々です。

地域福祉の推進役である地区社会福祉協議会が中心となり、地域で活動している住民団体や福祉事業者などの幅広い参加のもとに進めてきました。平成18年度から順次始まり、現在22地区全域で取り組まれています。

福祉コミュニティ形成事業の目的

平成17年3月に策定した相模原市地域福祉計画に基づき、身近な地域福祉を一層進めるため、相模原市社会福祉基金の運用収益等により、福祉コミュニティ形成モデル事業を市社会福祉協議会に委託し実施した。

なお、平成21年度からは、実施主体を市社会福祉協議会とし、福祉コミュニティ形成事業として市社協に補助金を交付している。

年 度	主 な 内 容
平成17	○福祉コミュニティ形成モデル事業推進委員会の設置・開催（市社協に設置） 福祉コミュニティ形成の基本方針の検討、ヒアリング調査の実施、モデル事業候補地の選考など
平成18	○モデル地区（光が丘地区・東林地区）における地域福祉推進会議の設置・開催 地域の福祉課題の抽出、具体的な取り組みに向けた検討など
平成19	○モデル地区における地域福祉推進会議の開催、モデル事業の試行
平成20	○地域で支えあう福祉活動への支援方策の策定 福祉コミュニティ形成モデル事業推進委員会によるモデル地区の取組みの評価・検証 活動への支援方策を策定 ○モデル事業の全市域への発信 各種広報媒体・シンポジウムの開催により、モデル地区の取組みや市及び市社会福祉協議会による支援方策を発信する。 ○モデル地区への継続的支援 （地区活動推進員人件費や活動費の継続的な支援を行う）
平成21	橋本地区・中央地区・田名地区に地域福祉推進会議の設置・開催
平成22	城山地区・津久井地区・相模湖地区・藤野地区・相武台地区に地域福祉推進会議の設置・開催
平成23	清新地区・相模台地区に地域福祉推進会議の設置・開催
平成24	星が丘地区・麻溝地区に地域福祉推進会議の設置・開催
平成25	大沢地区・横山地区・大野中地区・新磯地区に地域福祉推進会議の設置・開催
平成26	小山地区・大野北地区・上溝地区・大野南地区に地域福祉推進会議の設置・開催

なんで根づくの？

それは地域の皆さんが感じている「困り事」に対応しているからです！
 福祉コミュニティ形成事業を進めるにあたって、まずは地域福祉推進会議を開催。
 何に取り組むかは地域の皆さんが決め、各地区で地域の「困り事」を住民パワーで解決
 する方法・仕組みを話し合います。

〇話し合いで種まき！

地域福祉推進会議で最初に行うこと...それは地域の課題「困りごと」を調べることです。
 日ごろ感じている「困った！」をメンバーで共有します。

Q「困りごと」ってどんなもの？

- A 例えば...**
- ・近所付き合いが少ない
 - ・世代間の交流がない
 - ・子どもの遊び場が少ない
 - ・子育て世代を応援したい
 - ・ちょっとしたお手伝いが必要
 - ・一人暮らし高齢者の居場所や見守りがない
 - ・自治会加入者が減少
 - ・自由に集まれる場所がない
 - ・誰に相談したらいいかわからない
 - など

メンバーで出し合った「困り事」の中から、調査をとおして解決に向けて
 取り組むべき「困りごと」を絞り込みます。



〇耕してアイデアの肥料を！

Q どんなアイデアを出せばいい？

- A 例えば...**
- ・住民が自由に集まれる活動拠点をつくる！
 - ・世代間交流ができるイベントをする！
 - ・地域の高齢者や子どもの見守り活動をする！
 - ・赤ちゃんの誕生を地域でお祝いのする！
 - ・子どもが安心して過ごせる居場所をつくる！
 - ・助け合いの仕組み作りをつくる！
 - など

「こうすれば解決できるのでは？」という意見を自由に出し合います！
 いろいろなアイデアの中から、取り組む内容や仕組みを考えていきます。

〇取組から「3つのT」の 花が咲きました！



種まきの際のワンポイント

みんなが「気軽に」、「楽しく」取り組める方法を考えることです！

日頃からの「地域の横のつながり」を強め、 問題を事前に解決、予防しましょう！

〇災害時の要援護者支援を迅速にする



〇必要な人に必要な情報が届けられる



〇地域の“目”で消費者被害を未然に防ぐ



〇住民だけで解決できない生活課題を 早期に発見、関係機関につなぐ



〇顔なじみの関係になり、支援が円滑に行える



〇把握できたことで地域につなげられる





Tudou
つどう

つどう Tsudou

- 食事とおしてみんなでつどう場所
- 子育て中の家族や高齢者まで、みんなが安心してつどう場所
- 新たな出会いの場でもあり、これまでの絆をより充実させるつどう場所
- 誰でも気軽に話すことができ、何気ない会話から相談につながるつどう場所

コロナ禍では…
つどう楽しさ・大切さを感じる！



Tunagaru
つながる

つながる Tsunagaru

- 活動拠点でみんなとつながる
- 世代間交流でつながる
- 見守り活動や交流サロン、ボランティア活動などをおしてみんなとつながる
- ちょっとしたお手伝い、学習支援などをおしてつながる

コロナ禍では…
会えなくても
電話や手紙などで
つながる！



Tutaeru
つたえる

つたえる Tsutaeru

- チラシや情報紙を作成し、情報をつたえる
- 理解者や担い手を増やすため、福祉活動をつたえる
- 喜びや感謝の気持ちをつたえる
- 顔をみて話し、気持ちをつたえる

コロナ禍では…
気にかけていることを
つたえる！



つどうことで顔見知りとなり、みんなで支えあえる
つながることで理解しあい、優しくなれる
つたえることで地域の力が育まれる

みんないいひと さがみはら





住民のつながりと支えあう活動拠点 “ふれあいの家「ぬくもり」”

背景、課題、ニーズ、内容

昔のように気軽に声をかけづらい地域の希薄化などに対して、地区内の幅広い立場の方々に参画を得て、地域福祉推進会議が設置された。地区内で抱える課題を検討し、平成22年、住民のつながりと支えあう活動の拠点として、ふれあいの家「ぬくもり」を開設。

「ぬくもり」は週3日（火・水・木曜日）午前9時30分から午後4時30分まで。ボランティアがよろず相談を実施し、話し相手や困りごと、悩みごとなどの相談を受けた。また、住民交流促進として料理・園芸・介護予防教室を開催。

平成28年、借家の契約満了に伴い、現在の場所に移転。ボランティアが中心となり、催し（「いきいき百歳体操」「ぬくもり喫茶」「麻雀の日」「将棋の日」「ぬくもり子育てサロン」「映画の日」「手芸・折り紙の日」「ぬくもりよろず相談」）を定期開催。（令和2年12月現在、「ぬくもり喫茶」「映画の日」以外は休止中。お問い合わせは橋本地区社協042-775-8601まで）



携わっている方の声

高齢者が孤立しないよう、高齢者同士の交流を増やし、地域の絆が深まるように取り組んでいます。住民同士が顔見知りとなることから会話も増え、自然と見守り活動にも繋がればと思っていきます。現在、コロナ禍の中、催しが殆ど休止となっています。早く皆さんの笑顔が戻り、住民のつながりと支えあう活動拠点となるよう祈っています。

【地区社協会長】

定年退職を機に活動を始めました。初めに担当したのは「ぬくもり」麻雀の日の運営管理で、初心者の方々へのサポートも行いました。最近は百歳体操の運営も担当して多くの方たちと知り合うことができ、また感謝の言葉を掛けられてやりがいも感じています。

【ボランティアスタッフ】

目的がないとなかなか外に出ないので「ぬくもり」が開いてありがたかった。一人暮らしで話をする相手がないので、喋らないとおかしくなってしまう。コロナ禍でなかなか会えないが、なじみの方に合って話ができるのを楽しみに待っていた。

【利用者の皆さん】

新型コロナウイルス
拡大防止のため
休止中！



ぬくもり喫茶



映画の日



いきいき百歳体操

人数を制限し、換気し、座席間を開けて開催中です。（令和2年12月現在）

※参加希望の方は、人数の制限がありますので、橋本地区社協までお問い合わせください。

TEL 042-775-8601

これまでの経過

平成21年 橋本地区地域福祉推進会議発足。

平成22年 地区内の空き家を利用し、ふれあいの家「ぬくもり」を開設。
開所日は週3日（火・水・木曜日）午前9時30分から午後4時30分まで。
ボランティアがよろず相談を実施。
話し相手や困りごと、悩みごとなどの相談を受ける。
また、住民交流促進として料理・園芸・介護予防教室を実施。

平成28年 借家の契約満了と利用者、催しの増加に伴い、現在の場所に移転。
ボランティアが中心となり催しを定期開催。
部屋が広くなったため会議や他の活動にも利用可能。

基本情報 令和2年10月1日現在

人口：72,025人 小学校：6 中学校：2 年少人口率：12.1% 高齢化率：22.0%
民生委員・児童委員：現員数75人（定員数82人）うち主任児童委員：現員数3人（定員数3人）
自治会数：31



小地域で地域住民が交流できる場づくり

背景、課題、ニーズ、内容

平成25年から地域福祉推進会議（愛称：大沢comcom.com）を立ち上げ、「小地域・多世代・人材育成・高齢者支援・子育て支援・健康」をキーワードに、平成26年までの2年間、協議を重ねて検討した結果、『小地域で地域住民が交流できる場づくり』を目標に事業を推進することとなりました。

事業の内容は、地域住民への周知を目的としたイベント型事業の「ドット混む企画」や小規模地域拠点継続型事業の「大沢こむこむ茶屋」と「健康マージャン」の3本柱を中心に推進しています。「ドット混む企画」は、地区内の自治会館や集会所を利用して年2回を目安に開催しています。「大沢こむこむ茶屋」と「健康マージャン」は、上大島自治会館と古清水自治会館の2拠点で、それぞれ開催日を設定して開催しています。



携わっている方の声

地域福祉推進会議の愛称「大沢comcom.com（おおさわコムコムドットコム）」が、各種事業を通じて地域の皆さんに浸透してきていると感じています。地域福祉推進会議のメンバーや関係者の皆さんのご協力のおかげです。担い手の育成や開催場所の確保などの課題はありますが、今後、この事業を地域各所に広げていくことができると考えています。

【大沢地区社協 松井光臣 会長】

イベントでは毎回平均30名、こむこむ茶屋では子ども中心の上大島自治会館と、親茶会と子どもの交流の古清水自治会館で10名弱～30名強の参加者があり、健康マージャンでは2会場合計14卓を所有し、会員も80名を超す勢いではありますが、それぞれ独自の課題に取り組んでいます。特に「健康マージャン」は、「賭けない・飲まない・吸わない」を合言葉に、健全な頭脳

ゲームとしてのマージャンを楽しいスポーツと位置付け、「健康」を維持し、「生きる」喜びを感じ、「ふれあい」の輪を広げる、知的で健康的なコミュニケーションツールを目指して推進しており、参加者の皆さんには大変好評です。

【大沢地域福祉推進会議 齊藤賢一 委員長】

昔、我が家では年末になると、夫と仕事仲間がマージャンをしていて、楽しそうに見えました。あるとき、上大島自治会館で「健康マージャン」があると知り、参加してみました。ボケ防止になると思い、始めたら楽しくて毎回参加していました。今はコロナ禍で休みになっていますが、また出来たらと思います。

【健康マージャン参加者

上大島在住 森田芙美枝さん】

これまでの経過

- 平成25年 地域福祉推進会議を立ち上げ
- 平成26年 イベント型事業「ドット混む企画」の開始 ココミで参加者もアップ
回を重ねるごとに「大沢comcom.com」の知名度がアップ
- 平成27年 小地域交流の場（大沢こむこむ茶屋）の開始
子どもから高齢者までの参加を期待するが中心は子ども
- 平成28年 イベント型事業の内容を減らし交流の場を増やす修正
- 平成29年 ドット混む企画で「マージャン台を作ろう」2回開催 計4台作成
他市の健康マージャン実施施設を視察
- 平成30年 市内の健康マージャン実施施設と運営方法打合せ
健康マージャン運営委員会を立ち上げ
運営方法や各種備品も揃い準備が整う
小地域交流の場（健康マージャン）の開始
ボランティアスタッフ退任により一部運営停止
- 令和元年 順調に各事業を推進し更なるレベルアップを模索
- 令和2年 新型コロナウイルス感染防止対策で全面休止
参加者から再開の確認が相次ぐ



基本情報 令和2年10月1日現在

人口：33,161人 小学校：4 中学校：2 年少人口率：13.7% 高齢化率：26.8%
民生委員・児童委員：現員数34人（定員数34人）うち主任児童委員：現員数2人（定員数2人）
自治会数：17

交流・仲間づくりの場の充実・ 助けあい支えあいのまちづくり



背景、課題、ニーズ、内容

地区社協や民生委員・児童委員、コミュニティソーシャルワーカーなどの地域のさまざまな活動の中で、孤立やひきこもりに関する相談が多くあがったことから、地域住民や関係団体と話し合い、社会参加のきっかけづくりと住民同士の交流の場として、「しろやまふれあい農園」と「愛・城（あいじょう）ものがたり」（地域食堂）を実施しています。

「しろやまふれあい農園」は、月1回、土の耕しや作物の手入れ、種まきや草取り、収穫などの農作業をおこない、畑の作業を通じての交流の場となっています。「愛・城ものがたり」は、月1回、同農園で採れた野菜を活用して、カレーとコーヒーを楽しみながら、地域の人たちの交流の場として、男性の料理グループなどのボランティアスタッフにより運営されています。

ゴミ出しや電球の交換などの“ちょっとした生活の困りごと”を住民同士で気軽に相談できる「城山助けあい支えあいセンター」（愛称 あい♡あいセンター）では、地域住民のコーディネーターが相談を受け、あい♡あいセンターに登録するサポーターによる活動（有償）をおこなっており、「しろやまふれあい農園」、「愛・城ものがたり」の取り組みとともに、城山地区の「助けあい・支えあいのまちづくり」に向けての一助となっています。

携わっている方の声

ちょうど仕事を辞めた時に「しろやまふれあい農園」に出会い、外に出るきっかけになりました。最初のころは活動者同士がぎくしゃくした感がありましたが、少しずつ慣れて声を掛けるとだんだん良い雰囲気になり、地域に新しい友人もでき、一緒にでかけることもあります。農園で作った野菜を使った地域食堂にも協力を頼まれて参加していますが、コロナ禍で活動休止中。「愛・城ものがたり」が再開して、メンバーの皆さんとまた会える日が来ることを願っています。

【「しろやまふれあい農園」

「愛・城ものがたり」スタッフ：島添要子さん】

城山町社協の講座受講者が作った「精神保健ボランティアふきのとう」に参加していたが、そのふきのとうの仲間から誘われて「あい♡あいセンター」のサポーターに。

活動は週1度のペースで、買い物代行、通院・車いす介助などを行っています。「寒いのにありがとう」という言葉が何よりうれしい。活動が予定の時間より長くなることもあるが、コーディネーターが助言や様子を聞いてくれるので安心して活動しています。年に1度のサポーターとコーディネーターの交流会が中止となり非常に残念に思っています。

【あい♡あいセンターサポーター：塚田慶子さん】

しろやまふれあい農園



地域の人、施設に通う人、ボランティア、みんながつどって畑仕事。



立派な大根がたくさんできました。



ふれあい農園の収穫物はおいしいカレーに・・・

地域食堂
愛・城ものがたり

あい♡あいセンター



ひとり暮らし高齢者のお宅の枝切り作業をするサポーター。

つどうこと
つながること
大切にしています



自慢のカレーは男の料理「土曜会」と女性スタッフのコラボレーション。

地域交流サロン



「いいお天気ですね。」おしゃべりをしながら通院介助。



「そこはどうやるの？教えて」みんな手芸に夢中。



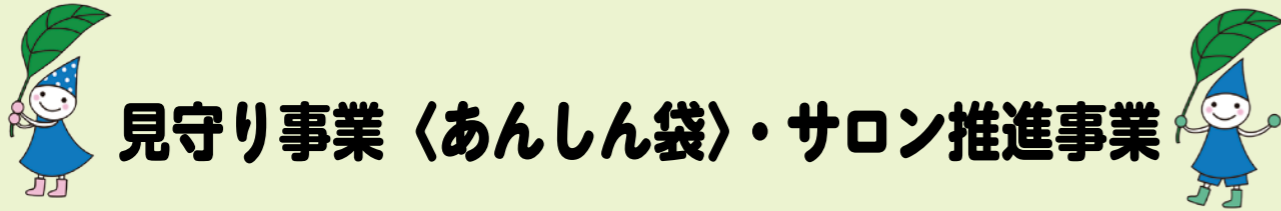
楽しい語らいの場が一日も早く復活しますように。

これまでの経過

- 平成22年～ 地域福祉推進会議を開始
- 平成23年3月 地域交流の場「原宿なごまーる」活動開始。
- 平成23年9月 地域交流の場「若葉ほっこりな」活動開始。
- 平成25年4月 地域交流の場「久保沢ふれあいカフェ」活動開始。
- 平成28年9月 城北の畑を借りだれでも参加できる「しろやまふれあい農園」事業を開始。
- 平成29年6月 しろやまふれあい農園の食材を利用した地域食堂「愛・城ものがたり」事業を開始。
- 平成29年7月 地域のちょっとした困りごとを住民相互の助けあいで解決する場として「城山助けあい支えあいセンター」（愛称あい♡あいセンター）が活動を開始。

基本情報 令和2年10月1日現在

人口：23,421人 小学校：4 中学校：2 年少人口率：11.8% 高齢化率：31.5%
民生委員・児童委員：現員数43人（定員数44人）うち主任児童委員：現員数3人（定員数3人）
自治会数：12



見守り事業〈あんしん袋〉・サロン推進事業

背景、課題、ニーズ、内容

見守り事業

以前、津久井小網支部で孤立死事例が発生した。その時の残念で悲しかった想いを繰り返さないためにコミュニティ形成事業として見守り活動を行っていかうと、ふれあい小網ネットワークが立ち上がった。小網支部委員・民生委員があんしん袋（防災グッズ）を配布し、あえて賞味期限のある飲料水やビスケットを入れることで、入れ替えを理由に日常的に高齢者の見守りが実践できると考えた。この活動をモデル事業として、現在津久井地区内9つある支部のうちの2支部（中央、三井名手）へも広がりを見せている。

直接対象者と話ができることで、実は地域の情報が届きにくかった高齢者や介護者に、地域事業（やすらぎステーション・ふれあいいきいきサロン・敬老会等）への参加を促すこともできるようになり、この活動は高齢者が安心して住み続けられるまちづくりを目指した事業となっている。

サロン推進事業

津久井地区は市内でも格別面積が広い地区であり、中山間部地域も多い。その為、身近な地域（歩いて行ける身近な場所）で住民同士が集える交流の場「サロン」が重要と位置づけ、サロン開催を推進する事業を行っている。

携わっている方の声

〈見守り事業〉

活動をとおり地域の中につながりができました。道で出会った時などお互いに笑顔で会話ができるようになりました。「半年に1度来てくれることは嬉しいし本当にありがたい。」という言葉に、ボランティアとしてのやりがいを感じています。

【小網支部 岡支部長】

対象者宅へ届けに行った時、「コロナ禍で人と会ったりすることが難しいので、あんしん袋を届けてもらえて嬉しい。」と言われました。顔を見て話をすることで、その方の様子もわかります。人と人との関りを大切にしたいと思っています。

【中央支部 Kさん】

あんしん袋を届ける時など、対象者の異変に気づくことができ、民生委員や関係機関に繋げることができれば安心して住みよいまちづくりを目指せる！と、令和2年から活動を始めました。多くのボランティアの参加もあり、コロナ禍でも地域で見守りができるようになっています。

【三井名手支部 立川さん】

毎月第3金曜日午後1時より活動。皆で体操をしたり、畑で採れた野菜を持ち寄り、昼食を作って食べたりしています。ただ令和2年度は、コロナ禍で飲食が出来ないため、グランドゴルフを行いました。お天気に恵まれ久しぶりの再会に笑顔が溢れていました。

【川和サロン 大塚さん】

毎週水曜日午前中活動しています。百歳体操の後、料理を作ります。具沢山味噌汁、シチュー、デザート等を食べながら近況報告をします。ご近所から頂く野菜等はとても役立ちます。今はコロナ禍で活動が出来ませんが、皆さんに会える日を心待ちにしています。

【サロン福寿草 登坂さん】



【小網支部】
水・ビスコ交換します！



【中央支部】
お顔が見えて嬉しい！

【あんしん袋】 地域を繋ぐ架け橋



【サロン福寿草】
自治会館で
楽しくおしゃべり



【三井名手支部】
しっかり見守ります！

【いきいきサロン】 交流の場



【川和サロン】
グランドゴルフを終えて
みんなでパチリ



これまでの経過

- 平成22年 地域福祉推進会議（小網支部に設置）立ち上げ。
- 平成23年 小網支部「小網ふれあいネットワーク」立ち上げ、「高齢者等の把握、声掛け・見守り活動」の仕組みづくりが始まる。また「サロン推進事業」を開始。
- 平成26年 3月 中央支部で「みまもり活動 あんしん袋」事業開始。サロン推進事業の影響により地区内のサロン数が12か所に増加。
- 平成29年 サロンの利用者数が増えてきたことや場所が遠くて通えないといった声により更なる増設の推進を進める。
- 平成30年 サロン数が22か所となる。
- 令和 2年12月 三井名手支部「ふれあい訪問活動—ふれあい袋（あんしん袋）—」事業開始。

基本情報

人口：24,895人 小学校：6 中学校：4 年少人口率：8.4% 高齢化率：37.5%
民生委員・児童委員：現員数55人（定員数55人）うち主任児童委員：現員数3人（定員数3人）
自治会数：61

「つながり」という「強み」を活かして

背景、課題、ニーズ、内容

福祉コミュニティ形成事業がスタートしたのは平成22年です。市内で最も少子高齢化が進み、そのことによる様々な課題はありますが、反面、昔ながらの豊かな地域のつながりが息づいているという「強み」がありました。

この「強み」に「新しいアイデア」を加え、課題の解決に向けた話し合いを進め、新たな取組が生まれました。

相模湖地区社会福祉協議会 会長 澤塚 正史



活動内容1 こんにちは赤ちゃん！さがみこ“ぬくもり”支援事業

1歳以下のお子様のご家庭に、ボランティア手づくりの赤ちゃん用品やおもちゃ等のプレゼントを民生委員・児童委員と主任児童委員がご自宅を訪問し、お渡しします。これまでに300を超えるご家庭にお届けしました。



携わっている方の声

生まれてくれたことを祝福するとともに、子育てに悩んだ時に児童委員の私たちに気軽に相談できるきっかけになればとの思いでお渡ししています。

【地区民生委員児童委員協議会 石井 冬樹 会長】



活動内容2 とっさの時のあんしんケース

高齢者や障がいのある方のお宅に配布し、緊急連絡先やかかりつけ医の情報等を入れ急病等「とっさの時」に備えます。配布は民生委員・児童委員が協力しています。



携わっている方の声

実際の救急搬送の場面で役立つ事例があり、とても感謝しています

【津久井消防署 救急救命士 江成 務 さん】



活動内容3 みまもりネットさがみこ

地域の商店や企業の協力により、福祉制度やサービスの利用が必要そうな人、少し心配な人に気づいた場合、地域包括支援センター（高齢者支援センター）や民生委員・児童委員等につなげる仕組みです。お客様と顔見知りな地元商店の強みを活かしました。



携わっている方の声

配達や集金等、仕事のついでに無理なく協力しています。実際に認知症が疑われる方を連絡したこともあり、地域の商店としてとても大切な活動だと感じています。

【(有)相模湖橋本新聞店 橋本 和明 さん】

活動内容4 ちょっとボランティア相模湖

ちょっとした困りごとを低額（基本100円〜）でお手伝いする助け合いの仕組みです。高齢者宅等の庭の草取りや買い物に大活躍！



携わっている方の声

人の役に立っていると思うと心が洗われます。ますます高齢化が進む中だからこそ、多くの元気な方に手を挙げていただき、一緒に活動したいですね！

【ボランティア 石川 次郎 さん（左）】

これまでの経過

- 平成22年～ 地域福祉推進委員会（地域福祉推進会議）開始
- 平成22年～ こんにちは赤ちゃん！さがみこ“ぬくもり”支援事業
- 平成23年～ とっさの時のあんしんケース
- 平成24年～ みまもりネットさがみこ
- 平成31年～ ちょっとボランティア相模湖

その他の活動

- 平成22年～ 子育てマップの作成・配布
- 平成23年～ 地域福祉活動の拠点確保
- 平成23年～ 地区社協情報コーナーの設置
- 平成23年～ 絵本の無料貸し出し「ぬくもり絵本コーナー」の設置

基本情報 令和2年10月1日現在

人口：7,687人（平均年齢 54.78歳） 小学校：3 中学校：2
 年少人口率（14歳以下）：7.0% 高齢化率（65歳以上）：39.9%
 民生委員・児童委員：現員数28人（定員数28人）うち主任児童委員：現員数2人（定員数2人）
 自治会数：31



藤野地域の良さを大切にした “おたがいさま”のまちづくり

背景、課題、ニーズ、内容

平成22年に福祉コミュニティ運営委員会が開設されました。話し合いを続ける中で、「地域で孤立しないための助け合える関係づくり」と「困りごとの解決」が課題としてあがり、“誰でもいつでも気軽に集える”多世代交流の場「たまり場」づくりが始まりました。

平成23年7月、「たまり場」第1号『隣組のお茶のみ会』が和田地区に誕生。順次開設し、現在9地区に広がっています。作品作り、料理、体操、ゲームなど各地域で考えた活動をとおして、子どもから高齢者まで参加できる地域の交流の場となっています。開催日には、駐在さんも参加。身近な情報を提供していただいています。

その後、平成29年に高齢者を対象に「生活状況や困りごとを把握するアンケート調査」を実施。移動問題や、ちょっとした困りごとがあることが分かり、改めて、地域でできる支えあいのしくみづくりの検討を始まりました。

他地区の視察や研修を経て、平成31年3月に「おたがいさまネットふじの（通称：おたネット）」を開所。6名のコーディネーターが相談を受け、訪問調査をした後、サポーターにつないで活動を行います（有償）。草取り・枝切り、買い物代行、ゴミ出し、簡単な掃除など、約50名のサポーターが得意な分野で大活躍。2年間で60件ほどの活動を行い、大変喜ばれています。

携わっている方の声



福祉コミュニティ形成事業による2つの活動が始まり、“たまり場”の交流ではみんなと会っておしゃべりができる「幸せ」、おたネット、では困りごとが解決できた時の「ありがとう」の声にふれています。

人と人とのつながりが広がり、たくさんの笑顔に出会うことができました。安心して日常生活を送るために、みんなで支えあい、「おたがいさま」を基本に活動しています。
【藤野地区社協 小池会長】

「たまり場」

活動を始めて10年経ち、長く続けてきた中で、地域の方との深まりや隣人の大切さを教えてもらいながら楽しく活動しています。【スタッフ 清水さん】

気楽に集まっておしゃべりができる「お茶飲み会」の開催が楽しみで、いつも待ち遠しいです。【参加者 80代女性】

「おたがいさまネットふじの」

“困っている時はおたがいさま”の精神の下、自己研鑽と体力保持を兼ねて活動に参加しています。利用者様に喜んでいただけた時は最高の気分です。【サポーター N.Y.さん】

ゴミの分別が大変になってどんどん溜まってきてしまい、サポーターさんに仕分けやまとめなどをお願いしました。おかげさまで、お部屋も心もすっきりしました。

【利用者 80代男性】

世代を超えた交流の場「たまり場」

会報「ひまわり」



隣組のお茶のみ会
駐在さんも
おしゃべりに参加



サークル紡
着物をリメイク。
今日の先生は90代のお母さん



ひまわり
幼稚園児との交流。お遊戯や
手遊びを一緒に楽しめます

住民の支えあい 「おたがいさまネットふじの（通称 おたネット）」



募集チラシ



よしず張り



相談日



枝切り



窓ふき

これまでの経過

- 平成22年 福祉コミュニティ形成事業による検討会を開始。運営委員会を設置。多世代交流の場「たまり場」づくりを検討。
- 平成23年7月 和田地区に「たまり場」第1号が誕生。順次開設し、現在9地区で活動。
- 平成29年 地区社協で高齢者を対象に「生活状況や困りごとの福祉課題を把握するアンケート調査」を実施。移動問題やちょっとした困りごとがあることを把握。
- 平成30年 藤野福祉コミュニティ形成事業で、地域内での支えあいのしくみづくりの検討を開始。
- 平成31年3月 「おたがいさまネットふじの（おたネット）」を開所。

基本情報 令和2年10月1日現在

人口：8,251人 小学校：3 中学校：1 年少人口率：8.4% 高齢化率：38.5%
民生委員・児童委員：現員数30人（定員数30人）/うち主任児童委員：現員数2人（定員数2人）
自治会数：50

住民同士が支えあい 安心して暮らせる地域づくり

背景、課題、ニーズ、内容

高齢者世帯、子育て世帯等の日常生活の困りごとの相談に応じ、解決できる仕組みづくりを目的として、令和元年6月に「おやま生活サポートセンター」を開設しました。

窓口は火・金曜日の午前10時から12時まで開所し、相談を受け付けています。

開所時にはコーディネーターが常駐して、窓口や電話での相談に応じています。また電話による相談は平日の日中にも常時対応しています。

依頼案件はコーディネーターが調整し、その都度対応できるサポーターが活動しています。依頼者の負担は無料としています。

活動内容は電球の交換、庭木の伐採などの簡単な作業や、病院の付き添いなどの継続性のある依頼にも対応しています。

これからも、地域の関係機関とも連携し「ALL OYAMA for ONE」の理念を掲げ、地域一丸となつての取り組みを目指していきます。

携わっている方の声

新たな活動から2年、会の認知度も徐々に定着し、ボランティアスタッフも少しずつ増えています。利用者さんの喜びの言葉と生き生きとしたボランティアさんの笑顔に接し、人と人のふれあいの大切さを感じています。オール小山を目指し、これからも継続していきます。

【増田センター長】

昨年は蛍光灯の交換、家具の移動、庭の雑草刈り、病院への付き添い等をお手伝いさせていただきました。

自分も高齢者の仲間の一人であることを認識しており、いつ皆さまのお世話になるかもわかりませんが、今は自分ができる事を精一杯やっていきたいと考えています。

【サポーター遠藤さん】

月に1度の通院の付き添いをお願いしています。アパートの2階に住んでおり、急な階段の上り下りや、電車の乗り降りに不安がありました。手をとって支えていただき、安心して通院することができて大変助かっています。

【利用者80歳の女性】



おやま生活サポートセンター



おやま生活サポートセンターのチラシ



小山地区社協
マスコットキャラクター
あいちゃん

ALL OYAMA for ONE

活動の様子



高窓の清掃



除草・剪定の作業



月に一度の運営会議



風呂換気扇清掃

これまでの経過

- 平成26年 地域福祉推進会議を開始
- 平成27年 困り事相談窓口を設置
誰もが気軽に立ち寄れる居場所づくりとして「ほっとほっとカフェ」を開設
- 平成30年 多岐に渡る相談に対応できるような組織体制やコーディネート方法の見直しを図るため
困り事相談窓口を一旦休止。一年掛けて検討を行う。
- 令和元年 地域の関係機関やボランティア団体等とも連携して取り組める、新たな組織体制を構築し、誰もが住み慣れた地域で、いつまでも安心して暮らせる地域づくりを目指し「おやま生活サポートセンター」として再スタート。
- 令和2年 「ほっとほっとカフェ」がサロン活動として自主的に活動を始める

基本情報 令和2年10月1日現在

人口：20,639人 小学校：1 年少人口率：11.9% 高齢化率：22.7%
民生委員・児童委員：現員数25人（定員数26人）うち主任児童委員：現員数2人（定員数2人）
自治会数：9

地域住民の参加と支えあいによる福祉のまちづくり ～ちょこっとボランティアくらぶ～

背景、課題、ニーズ、内容

清新地区社協は、地区内の自治会及び民生委員児童委員協議会、ボランティア団体等と連携して地域福祉の推進に取り組み、「地域住民の参加と支えあいによる福祉のまちづくり」を目指しています。平成23年度に「福祉コミュニティ形成事業」の指定を受け、地域課題の抽出、共有、検討を行いました。その中で、高齢者や障がい者の「電球の交換ができない」や「庭の草むしりをお願いしたい」、「古新聞をまとめてほしい」など、「ちょっとした困りごと」について「地域住民の参加による支えあい」の仕組みとして、“ちょこっとボランティアくらぶ”（通称：ちょこボラ）をはじめました。平成24年より本格的に活動をはじめ、週に1回ミーティングを行い依頼案件について検討し活動者のマッチングを行ない、住民同士による支えあい活動を行っています。ちょこボラ登録者は現在30名（令和2年度）、令和元年度までの累計活動件数は330件です。令和元年度からはシニアサポート活動にも登録し、ゴミ出しなど継続的な活動も行い、地域包括支援センター（高齢者支援センター）とも連携することで地区内高齢者のニーズにも対応をしています。

携わっている方の声

地域コミュニティの希薄化が進む中、お互い住民同士が支えあう仕組みとして活動を始めました。高齢の一人暮らしの方などは親族が遠方で「ちょっとした困りごと」を頼みづらかったことが、ちょこボラを通じて解決できたことを喜ばれています。また、担い手も仕事を退職されて地域活動として参加されている方が多く、お互いに関わりを持つことで社会生活の励みになっています。だれもが顔見知りになるような関係が作ればと願いつつ、ちょこボラメンバーを増やしながらか多くの住民の方に活動を知ってもらえるようにしていきたいと思っています。

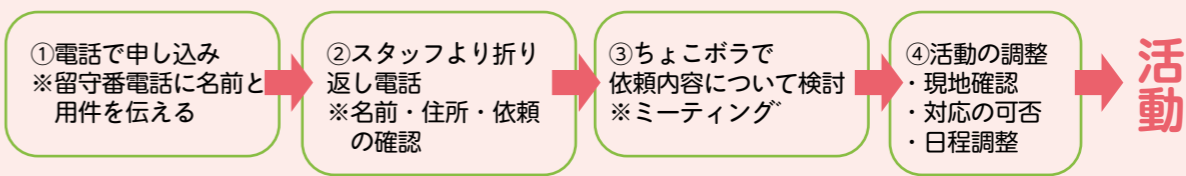
【清新地区社協 山口会長】



近所の80代のおばあちゃんに頼まれ、時々、電気器具の交換や修理をしていました。その時のおばあちゃんの喜ぶ顔を見るのがとても嬉しかった経験から、地域情報紙の「ちょこっとボランティアくらぶ」の募集をみて「これだ!」と思い、これからの生き甲斐にと妻と二人で申し込みました。ちょこボラに登録して約3年。一人でも多くの方が笑顔でいられるように、またその笑顔をエネルギーに変えて、生き生きと活動をしていきたいと思っています。

【ボランティア 石井三郎さん】

ちょこっとボランティアくらぶ ～活動までの流れ～



<活動内容>

草むしり、電球の交換、家具の移動、庭木の剪定など短時間で対応できる「ちょっとした困りごと」

庭の草むしりなど、“ちょっとした”お手伝いを住民同士で互いに支えあいながら地域で生活できることを目指して活動をしています。



週に1回、ちょこボラメンバーでミーティング。ちょこボラ依頼について検討、活動者のマッチングをし、活動の報告を行いながらメンバーの交流も図っています。



地域づくり部会（高齢者の地域課題について話し合う会議）と連携し住民説明会を開催。ちょこボラのメンバー募集も行っています。



これまでの経過

- 平成23年 地域福祉推進会議を開始。
- 平成24年 「ちょこっとボランティアくらぶ」(通称ちょこボラ) と称し、身近な草取りや電球の取り換えなど、ちょっとした困りごとの相談をちょこボラ専用携帯電話により受付開始。新規登録者説明会や登録者研修会などを継続的に実施し、ボランティアの増員やボランティアの見識を深める活動も行っている。
- 平成28年 登録者をエリア別に班分けし、登録者への活動依頼の効率化を図る取り組みを始めた。
- 平成31年 原則的には、単発の活動のみ行ってきたが、地区内のニーズにこたえて、市のシニアサポート活動（訪問型）を開始し、ごみ出し等継続的な活動にも取り組みを開始した。

基本情報 令和2年10月1日現在

人口：31,072人 小学校：2 中学校：2 年少人口率：11.2% 高齢化率：21.2%
民生委員・児童委員：現員数30人（定員数34人）うち主任児童委員：現員数2人（定員数2人）
自治会数：16



横山地区の交流と活動の拠点

背景、課題、ニーズ、内容

高齢者の方から些細なことでも相談できる場所や話し相手がほしいといった声から、地域の困りごとを身近な地域で解決できる居場所を作りたいと考え、平成25年12月に住民同士の交流と気軽な相談の拠点としてコミュニティよこやまを開設。

コミュニティよこやま「憩」は毎週月曜日と金曜日の午前10時～午後3時まで開所しており、ボランティアスタッフが常駐しています。お茶を飲みながらお喋りをしたり、散歩の途中や買い物のついでに気軽に立ち寄れる、住民のための交流の場となっています。

ボランティアによる手芸、ストレッチ体操、羽根っこダーツ、ポッチャ、地域包括支援センター（高齢者支援センター）の「よこやま体操」など様々な企画を行っています。夏休み、春休みには、近隣の子どもたちにも楽しんでもらえるような特別企画も実施し、大変好評を得ています。

コミュニティよこやま「憩」

コミュニティよこやま「憩」の花壇は、清新中学校の生徒さんと一緒に植えたチューリップやビオラなどが見事に咲きます。日頃からボランティアさんが丹精込めて手入れをしてくださり、通りかかった人、誰でもが楽しむことができ、笑顔と心を癒してくれます。

ボランティアさんの手ほどきを受けながら花植える清新中学校の生徒さんたち



携わっている方の声

気楽に立ち寄れる「憩の場」として、多くの方々にご利用いただいています。コミュニティ部会では、安心して、楽しんでいただけるプログラムを用意し、協力員の方と一緒に時間を共有できるよう取り組んでいます。

現在地区社協では、新年度（令和3年度）から、新たな拠点での活動に向けても準備しています。

【横山地区社協 会長 高橋 年廣】

地域の方々と交流する機会がより一層増え、自然と見守りにもつながっています。孤立しがちな地域高齢者の居場所づくりなど、もう一步踏み込んだ体制づくりを考え、利用者の方が喜んで参加できる企画を考えていきます。

【コミュニティ部会長 佐賀さん】

私は、毎回コミュニティよこやま「憩」に手押し車で30分かけてきています。皆さんと楽しくお話をしたり手芸をしたり、あっという間に時間が過ぎ又30分かけて手押し車をおして家に帰ります。私にとってここで過ごす時間は、かけがえのない時間です。

【利用者の佐藤さん】



定期的到手芸や体操、わなげ、ポッチャなど様々な企画を用意しています。



お出かけ用「集印帳」を作りました。コミュニティよこやま「憩」に来られた際に押印してポイントをためると、地区内作業所で作成された素敵なグッズがもらえます。

これまでの経過

- 平成25年 地域福祉推進会議を開始
- 平成26年 地区内の空き家を利用し、コミュニティよこやま「ぼくん家」を開設。「居場所」と「さりげない見守り」を目的として毎週月・金曜日に開所人づてに情報が広がり、少しずつ来所者が増加。一方で、場所の広さや機能面から活動の展開のしづらさが課題となり、新たな拠点候補地の必要性について話し合いを重ねた。
- 平成28年 自治会の協力を得て、タウンハイツ横山台集会所に移設。コミュニティよこやま「憩」としてリニューアルオープン。健康ストレッチ体操（月1回）、よこやま体操（月2回）、手芸（偶数月1回）等各プログラムを開始。

基本情報 令和2年10月1日現在

人口：14,533人 小学校：1 年少人口率：15.4% 高齢化率：25.1%
民生委員・児童委員：現員数19人（定員数20人）うち主任児童委員：現員数2人（定員数2人）
自治会数：23

三世代・心でつながる街



背景、課題、ニーズ、内容

中央地区では《三世代・心でつながる街・中央地区》をキャッチフレーズとし、三世代交流活動を展開しています。

現在、福祉コミュニティ部会では、中央地区内5拠点『相模原中央・矢部・富士見・相生・MYT（マイト、松が丘・弥栄・高根）』で活動しています。

地域の方がお互いに顔見知りになり、挨拶や会話も増えていくことにより、何か困り事が起きた際には、皆で助け合い、解決していけるような、安全・安心で暮らしやすい地域づくりに協力していきたいと考えています。 【福祉コミュニティ部会・山田幸弘部会長】

地域の方の出会いの場をたくさん作ることで隣近所の「つながり」を強めようと、民生委員・児童委員、自治会、ボランティアグループ「まごの手」等、様々な団体の協力のもと、活動を実施しています。

地区内5拠点で、季節の行事（クリスマス、ひなまつり等）、工作やゲーム、体操等、様々な企画を行っています。赤ちゃんからご高齢の方まで障がいのある方もない方もどなたでも参加できる活動となっています。

携わっている方の声

三世代交流事業のボランティアを「男性ボランティアまごの手」のメンバーでお手伝いしています。拠点によって参加者が異なりますが、お菓子づくり、ゲーム、季節ごとの手作りの飾りもの等、それぞれ手伝いながら一緒に楽しんでいます。でもおしゃべりされているのが一番かな？

終了時間になり、子どもさんたちが帰るとき、ハイタッチやバイバイして帰っていくときが嬉しいですね！また高齢者の方たちは「今度いつですか？」と尋ねられることが最高です。協力ができて良かったと思います。

また地域の皆さんと顔が合わせられるように、コロナの早い収束を祈るばかりです。 【男性ボランティアまごの手会員 大森 功さん】

ボランティアに参加する前は、初めて会う人がいるので緊張していたし不安もあったが、徐々に慣れていくことが出来ました。特にクリスマス会では、小さい子どもと触れ合っ、子どもたちの喜ぶ姿や笑顔が見られたことが、とても嬉しかったです。今後は他のメンバーにも声を掛けて高齢者施設などのボランティアも体験してみたいと思っています。

【ボランティア・西門コーレメンバー原さん】



近所でも知らなかった人と知り合ったり、あいさつ程度のご近所さんと仲良くなったり、みんなが笑顔になれるつながりができました。

5 拠点活動紹介



ふれあいむらとみ
世界にひとつだけの鯉のぼり制作
屋根より高い鯉のぼり～

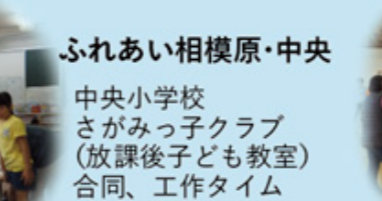
ふれあいふじみ
子育てサロンれたすっ子
合同クリスマス企画



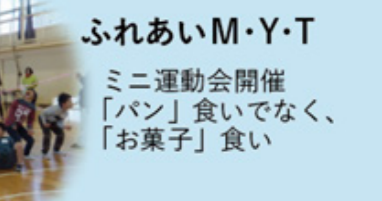
ふれあい相生
かぼちゃの
お菓子バッグ作り



ふれあい相模原・中央
中央小学校
さがみっ子クラブ
(放課後子ども教室)
合同、工作タイム



ふれあいM・Y・T
ミニ運動会開催
「パン」食いでなく、
「お菓子」食い



名称	場所	開催日時
ふれあいふじみ	中央公民館	毎月第2水曜日 午後2時30分～4時30分
ふれあいむらとみ	矢部自治会館	毎月第4金曜日 午前10時30分～午後3時
ふれあい相生	相生集会所	毎月第1土曜日 午後1時30分～3時

そのほか相模原・中央地域では「ふれあい相模原・中央」
松が丘・弥栄・高根地域では「ふれあいM・Y・T」の活動を不定期で実施しています。
(*令和2年度はコロナのため、全ての活動を休止しました。)



これまでの経過

- 平成21年 地域福祉推進会議を開始
- 平成23年 ふれあいふじみ開始
- 平成24年 地区社協事業として「福祉コミュニティ部会」が担当
ふれあいふじみ、ふれあいむらとみが毎月活動
相模原地域の三世代交流について話し合い
- 平成26年 ふれあい相生の立ち上げ、その後毎月活動
ふれあいMYTの交流事業開催
- 平成30年 ふれあい相模原中央の交流事業開催

基本情報 令和2年10月1日現在

人口：35,811人 小学校：3 中学校：2
年少人口率：10.6% 高齢化率：24.2%
民生委員・児童委員：現員数47人（定員数49人）
主任児童委員：現員数3人（定員数3人）
自治会数：33





たくさんの笑顔があふれる地域の輪



千代田 いこいの広場 グラウンド・ゴルフ

背景、課題、ニーズ、内容

つどう

①星が丘地区いこいの広場
②千代田いこいの広場
③横山いこいの広場

子育て中の家族や高齢者まで、みんなが気軽に集える「いこいの場所」が必要との要望により、地域の方々が歩いて行ける千代田・横山・星が丘の3か所で交流の場を開催している。集いの場があることで地域の輪が広がっている。

つながる

④星が丘地区
ちょっと手伝い隊

制度では対応できない、ちょっとした困りごとを団塊世代をはじめとする地域の方々が解決できる仕組みが欲しいとの要望により、地域の支えあいの活動をスタートしている。活動者の介護予防と仲間づくりもできている。

つたえる

⑤はやぶさ学習塾

子どもたちに寄り添い学習の大切さを伝える「子どもの居場所」があることが大切だと考え「無料学習塾」を開催する。宿題や苦手科目等を持ち寄って、地域の教員OBさん等から学ぶことで交流ができている。



携わっている方の声



「いこいの広場」を楽しみに来てくださる皆さんの元気な姿と笑顔を見ることが私たちの楽しみです。「いこいの広場」は地域を結ぶ架け橋になっています。

【地区社協理事／大筋さん】



「ちょっと手伝い隊」に定期的に活動して頂くようになったことで、顔見知りも増えて安心して暮らせるようになっていきます。

【矢部さん】



小中学生を中心に宿題や苦手科目を持って来てもらい教員の経験を活かして教えています。道端で会った時もあいさつをしてくれて、子どもたちの成長が微笑ましいです。

【民生委員・児童委員／竹内さん】

①星が丘地区 いこいの広場



毎月カレーを食べるのが楽しみ



ご近所同士のひと時

星が丘公民館／毎月第4日曜日
カレー、ピザ、コーヒー、ジュース 等
囲碁将棋、オセロ、折紙、編み物 等

②千代田 いこいの広場



折紙づくりで楽しくおしゃべり



男性に人気の将棋対戦

千代田7丁目自治会館／毎月第2金曜日
トースト、ピザ、コーヒー 等
囲碁将棋、折紙、グラウンド・ゴルフ 等

③横山 いこいの広場



工作づくりが毎月楽しみ!



バンドエクササイズ体操で介護予防

横山集会所／毎月第2水曜日
体操(バンドエクササイズ、ストレッチ)
カラオケ、小物づくり、健康麻雀 等

④星が丘地区 ちょっと手伝い隊

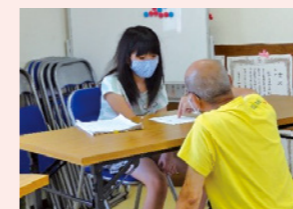


介護予防を含めて頑張っています



お互い様の気持ちで活動中

ごみ・資源出し、蛍光灯・電球交換、粗大ゴミ搬出、草取り、見守り
家具の転倒防止用具の設置 等



宿題を一緒に勉強中



分からない科目を全集中勉強

⑤はやぶさ学習塾

横山2丁目自治会館
毎月第2・4日曜日／
春夏冬季休暇期間



星が丘協LINE
公式アカウント

これまでの経過

- 平成24年 地域福祉推進会議を開始(毎年開催)
- 平成25年 7月～ ①「星が丘地区いこいの広場」公民館を活用して開設
- 平成25年10月～ ②「千代田いこいの広場」自治会館を活用して開設
- 平成27年 3月～ ③「横山いこいの広場」集会所を活用して開設
※いこいの広場の3地区へ参加して
欲しい目的で御朱印帳を配布!
- 平成30年10月～ ④「星が丘地区ちょっと手伝い隊」発足
- 平成30年12月～ ⑤「はやぶさ学習塾」自治会館を活用して開設

基本情報 令和2年10月1日現在

人口: 17,909人 小学校: 1 年少人口率: 12% 高齢化率: 26.3% 民生委員・児童委員: 現員数26人(定員数26人) うち主任児童委員: 現員数2人(定員数2人) 自治会数: 14か所



星が丘地区社会福祉協議会
電話 042-755-9955

生活のちょっとしたお困りごとのお手伝い 光が丘サポート隊 お食事とおして集える居場所 にぎわい処



背景、課題、ニーズ、内容

光が丘地区は昭和40年代から急速に宅地開発が進み、子育て世帯が同時期に転居してきました。近年、当時親世代だった住民が現在70代～80代となり、中央区内で高齢化率が一番高い地区となっています。この状況になることを見据え、平成3年頃から「地域福祉に力を入れよう」という機運が高まり、「福祉の里づくり」を合言葉に地区内の福祉相談窓口設置やボランティア登録制度などに取り組んできました。

その後、平成18年から福祉コミュニティ形成モデル事業に参加。それまでの地域福祉活動を見つめ直し「ボランティア同士の交流」「全世代的な担い手の創出」「気楽にみんなが集える拠点づくり」を次の目標に据えることになりました。そこで生まれたのが「光が丘サポート隊」「にぎわい処」です。当初は地区内のアパートを借り活動を行っていましたが、平成25年に県立相模原工業技術高校跡地に住民の力で光が丘ふれあいセンターが設立されたため、活動を一層発展させるべく拠点を移しました。ふれあいセンターには地域包括支援センター（高齢者支援センター）も入居し、地域ボランティアと公的な機関が日常的に連携できる体制が生まれ、地域交流の拠点として親しまれています。

携わっている方の声

現在はボランティア相談窓口の受付と、ごみ捨て、障がいのある方の送迎を主に行っています。定年後、公民館活動や民生委員などを経験する中で人の輪が広がる楽しさを知りました。現在はサポート隊の活動が中心ですが、受付では色々な人と会えるし、ごみ捨てや送迎は運動の一環になっているので大変さは感じません。福祉関係の仕事をしてきたので、それも役立っています。また、家族といい距離感を保つためにも地域に出ることは大切です（笑）

【サポート隊員 藤沼さん】

にぎわい処がふれあいセンターに移る前から関わっています。長く続けるコツは「クヨクヨせずサラッとやること」。常連さんにも適度な距離感を心がけています。それぞれ楽しみ方があると思うので、この活動をおして交友関係も広がりました。最近では近隣の方から野菜の差し入れをいただくこともありとても助かっています。母から「お役に立てることがあればなんでもやりなさい」と言われてきたので、できる限り続けていきたいと思っています。

【にぎわい処代表 小林さん】

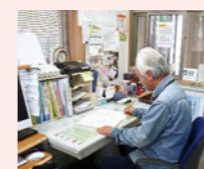
光が丘地区の地域福祉の根幹は30年前の住民アンケートにあります。そこで集められた住民の意見をベースに、福祉コミュニティ形成事業も他地区より一足先に取り組むことができました。現在、光が丘の福祉コミュニティ形成事業は成熟してきており、過渡期を迎えています。この取り組みを次の時代に繋げるべくみんなで考えていくことも、モデル地区として最初に手上げた地区の役割ではないかと思っています。

【光が丘地区社会福祉協議会 飯沼会長】



一般社団法人 光が丘ふれあいセンター

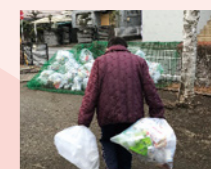
住民の力で設立された民間の地域交流施設。1階にひかりサポートセンターと地域包括支援センター（高齢者支援センター）があり、2階で週2回にぎわい処を開催している。福祉コミュニティ形成事業の拠点となっている。



ひかりサポートセンター
（ボランティア相談窓口）

光が丘サポート隊 （ひかりサポートセンター）

地区内住民のちょっとした困りごとをお手伝いしています。その他にも光が丘ふれあいセンターの受付や地区内イベントのお手伝いなど、地区になくてはならない存在となっています。



ごみ捨ての
お手伝い



光が丘ふれあい
センターの受付



障がい者施設
利用者の送迎



サポート隊交流会

にぎわい処

近隣の高齢者・障がい者の方を対象に、週2回（火・木）、お食事処を開催。グループにぎわいのメンバーが作る、季節の食材を生かしたお料理が人気を呼んでおり、地区内の福祉施設がお弁当を買いに来るなど“にぎわい”を生んでいます。担い手側も曜日ごとに趣向を凝らし、生きがいづくりに繋がっています。

コロナ禍でお弁当持ち帰り方式に変更。感染対策を徹底した上で、休まず活動しています！



これまでの経過

- 平成18年 福祉コミュニティ形成モデル事業に参加。地域福祉推進会議を開始。
- 平成20年 光が丘サポート隊を設立。ひかりサポートセンターの開設。にぎわい処の開設。
- 平成25年 県立相模原工業技術高校跡地に「光が丘ふれあいセンター」が設立。ひかりサポートセンター・にぎわい処もふれあいセンターに拠点を移す。サポート隊はふれあいセンターの受付業務を受託。

基本情報 令和2年10月1日現在

人口：26,891人 小学校：4 中学校：1 年少人口率：11.3% 高齢化率：32.6%
民生委員・児童委員：現員数39人（定員数40人）うち主任児童委員：現員数2人（定員数2人）
自治会数：29



はやぶさカフェ大野北

背景、課題、ニーズ、内容

「困りごとがあっても、どこに相談すればよいか分からない」という声が上がりました。地域に気軽に困りごとを話すことができる居場所を作ることを目指して、平成29年4月に「はやぶさカフェ大野北」をオープンすることになりました。

現在は、淵野辺駅北口側と南口側に拠点を設け、それぞれ月1回午前10時から午後3時まで開所し、地域のボランティアさんたちが運営しています。

軽体操、お口の体操、クイズ、折り紙、手話、歌、ゲーム、紙芝居など様々な企画を行い、ときには津軽三味線やけん玉、シャンソンの実演を視聴したり専門家の談話を聞くなどのイベントも開催しています。

携わっている方の声

二つのカフェとも利用者の方が「また来月。私、次回は〇〇さんを誘ってくるわね」とカフェでできた友人に話しているのを聞くと、地域のつながりが少しできたのかなと思います。一方、男性の利用者が少ないのが課題です。カフェのボランティアに関しては、民生委員を退任した人たちが継続して取り組んでおり、今後もこのような形でカフェの継続ができれば良いと思います。

【大野北地区民生委員
児童委員協議会 協山会長】

自治会の広報を見て、何かの役に立ちたいという思いから活動に参加しましたが、逆に仲間や利用者さんに元気づけられています。

カフェに来る人にみんなで家族のように気にかけて、姿が見えないとみんなで心配しています。

企画の考案も最初は大変だなと感じましたが、続けていくうちに楽しみに変わりました。活動の雰囲気にもぎやかです。

【ボランティア石田さん】

誰でも気軽に立ち寄れるサロンが地区社協にあると聞いて、施設の利用者と一緒に何度か利用させていただきました。民生委員やボランティアの方に温かく迎え入れていただきました。一緒に体操したり歌をうたったり、楽しい時間を過ごすことができました。コロナが終息し、また再開するのを楽しみにしています。

【障がい者福祉事業所職員
山田さん】

はやぶさカフェかぬまだい
何気ない会話から「困りごと」に気づき、相談を受けます



イベントは大盛況！みんなでジャンケン

はやぶさカフェ銀河

10時から3時まで、ずっと過ごすこともできます
合間に簡単な体操でリフレッシュ！



ゆったりした雰囲気の中、
お話ができます

これまでの経過

- 平成26年 福祉コミュニティ部会（地域福祉推進会議）を開始。
- 平成27年 アンケート及び視察研修を実施し、イメージづくり。
- 平成28年 「はやぶさカフェ大野北」を試行実施。
- 平成29年 「はやぶさカフェ大野北」を2か所で本格実施。

基本情報 令和2年10月1日現在

人口：61,002人 小学校：4 中学校：3 年少人口率：13.0% 高齢化率：22.0%
民生委員・児童委員：現員数58人（定員数64人）うち主任児童委員：現員数2人（定員数3人）
自治会数：36

地域住民による支えあいの仕組み 「田名ボランティアセンター」



田名地区社協
イメージキャラクター
「たなワン」

背景、課題、ニーズ、内容

「地域住民の困りごと」に対する「地域住民による支えあい活動」の仕組みとしてボランティアセンターを立ち上げました。立ち上げの目的には、困りごとの解決だけでなく、新たな個人ボランティアの受け皿づくりという側面もあります。

センターは毎週火曜日と土曜日の午前10時から午後3時に相談日を設け、コーディネーターが相談を受け付けています。草取りなど個人からの依頼の他、高齢者施設の手伝いや小学校からの「昔遊び」等の体験学習への協力など、地域からの依頼にも対応しています。定期的にサポーター（登録ボランティア活動者）の研修や交流活動も行い、普段はあまり顔を合わせることが少ないサポーターさん同士のつながりを作り、活動をフォローしています。

また、「支えあい・助けあい」の気持ちが田名に根付くことを目指して、住民向けのボランティア入門講座の開催や、中学生のボランティア体験の機会を作るなど、ボランティア活動の啓発にも取り組んでいます。

令和2年6月に開所10年を迎えました。改めて現状に合った活動が出来ているかを省みながら、その時々々のニーズに応えることができる活動をしていきたいと思ひます。

携わっている方の声

十人十色の様々な力を持った人々が、地域にはいます。そうした人達が知恵と力を少しずつ出し合うことができれば、きっと地域は住みやすくなります。ボランティアセンターは皆さんの力を受け止め、活かせる場です。活動の満足感、充足感、本音にいいものですよ。

【センター長／白井 眞さん】

ある時「ボランティアをして良かったことは何ですか」と聞かれました。私は即座に「地域に自身の居場所があると実感するときです」と答えていました。活動の数だけ出会いも増えました。これからも大切な仲間と一緒に地域のお手伝いのできたらと思っています。

【運営委員／檀 登志江さん】

私達のボラセンではサポーターさんが楽しみにしている行事に芋煮会と新年交流会があります。ともに大勢の参加者があり、おしゃべりに花が咲き、お困り事の情報交換の場にもなっています。今は無理ですが、またおしゃべりの中から地域の支えあいの芽が出れば最高です。

【コーディネーター兼サポーター
高野 仁さん】



●サポーター同士のつながり作り
交流活動の一環として「サポーターの集い」や「サポーター研修」などを実施

●個人支援



電球、蛍光灯などの交換



草取り



通学等の付き添い

●施設支援



高齢者施設の喫茶コーナーの手伝い



これまでの経過

- 平成21年 地域福祉推進会議を開始。住民アンケートから「介護保険を申請するほどでもないが、ちょっとした困りごと」を抱える高齢者等の声が多いことを把握。地域の助け合いで解決する仕組みの検討を進める。
- 平成22年 拠点を構えて「田名地区社会福祉協議会 田名ボランティアセンター」を開所。以降、市内で地域住民が運営するボランティアセンターの先駆けとして、他地区からの視察なども受け入れながら活動を続ける。
- 令和2年 開所10年を迎える。

基本情報 令和2年10月1日現在

人口：30,475人 小学校：2 中学校：1 年少人口率：13.1% 高齢化率：27%
民生委員・児童委員：現員数30人（定員数30人）うち主任児童委員：現員数2人（定員数2人）
自治会数：16

だれでも “ぶらっと” 立ち寄れる 交流の家 ぶらっと上溝



背景、課題、ニーズ、内容

高齢者の閉じこもりについての課題から、おでかけしやすくするための取り組みを検討しました。

まずは、おでかけ途中で休憩できるようにベンチを手づくりし、道路に面した場所や自治会館等に設置しました。さらに、でかけるきっかけづくりをと、「子どもから高齢者まで気軽に楽しく集える場所づくり」に取り組むこととなりました。

場所探しを重ねた結果、戸建ての平屋を借り、地域の交流拠点として「ぶらっと上溝」を開所しました。

「ぶらっと上溝」は、だれでもぶらっと気軽に立ち寄れる場としてオープンしており、地域のボランティアや民生委員等が協力して当番をしています。

地域の方や福祉施設がスタッフ・先生として活躍しているプログラムも開催しています。コーヒーを飲みながらお話を楽しむ“かふえみぞ”、おやこサロン、子どもクッキング、健康マージャン、絵手紙教室、骨盤を整える体操教室、折り紙教室、無料弁護士相談など、できることを活かした交流の場となっています。

携わっている方の声

検討から今まで、できることをと、力を貸してくれる方、必要なものを寄付してくださった方、長年関わり続けている方、地域のいろんな人たちの力を感じています。遠くて行けないとの声も聞くので、今後地区で場所を一時的に借りて開催する出張版のようなことができたと思っています。

【上溝地区社協 磯会長】

月3～4回“かふえみぞ”を開いています。おなじみさんが毎回楽しみにしていると立ち寄ってくれ、ぶらっとお話しできる交流の場所になっているように感じています。ぶらっと上溝に関わるなかで他のプログラムには参加者としても楽しんでいきます。いろんな人が楽しく過ごせるきっかけをこれからも作りたいです。
【かふえみぞスタッフ 塩田さん】

ボランティアグループとして当番をしています。つくった野菜を絵手紙教室の画材として持って行ったり、時間がある時に庭の手入れをしたり、できることでも関わっています。立ち寄れる場所があることの良さを感じているので、より多くの人に来てもらえる工夫ができればいいと思っています。
【ボランティアスタッフ 栗さん】



【子どもクッキング】

子どもたちが、男性料理グループ「グルメの会」の皆さんと一緒に調理体験



【折り紙教室】

1枚の折り紙から色々な世界が広がります



【かふえみぞ】

手づくりの看板が目印！サイフォンで淹れるコーヒーと共に会話がはずみます

【骨盤を整える体操教室】

体操で、気分もスッキリ！ストレス発散！

これまでの経過

- 平成26年 「ふれ愛・ささえ愛のまち上溝～おせっかいの仕組みづくり～」をテーマに地域福祉推進会議を開始。
- 平成27年 交流のきっかけづくりのベンチを作成。
- 平成28年 「ぶらっと上溝」開所。
順次、地域の方のできることやニーズに合わせてぶらっと上溝主催の各プログラムが開始。
- 平成29年 地域団体への貸し出し開始。

基本情報 令和2年10月1日現在

人口：33,512人 小学校：2 中学校：2 年少人口率：12.9% 高齢化率：26.3%
民生委員・児童委員：現員数32人（定員数34人）うち主任児童委員：現員数1人（定員数2人）
自治会数：16



開所日 火・金 午前10時～午後1時 ※のぼりが目印です。

おおのなかボランティアセンター

背景、課題、ニーズ、内容

サロンの展開が比較的充実していた地域の中で不足していることは無いかとの視点に立ち、個別対応できるサポートの拠点として、住民が安心して生活できる地域づくり、相互扶助を推進するボランティアセンターの設置を目指し、平成28年開設しました。

「おおのなかボランティアセンター」は火曜日と金曜日の午前10時から午後1時まで開所しており、電話での相談をはじめボランティアスタッフが常駐し対応。また、スペースの一部を利用して、お茶を飲んだりお喋りしたりできる、「ひとときのお休み処」を開設しています。

支援活動内容は庭木の剪定、除草、ゴミ出し、通院の付き添い、買物代行など。毎月1回「健康麻雀教室」を開催。地区社協が主催し、毎月開催している「ふらっと立ち寄りサロン」を隔月で担当し、高齢者にとどまらず地域住民との交流を図っています。

携わっている方の声

年々活動の機会が増え、地域の高齢者の役に立っているという感触が高まっています。活動報告の折は、共通認識を持つための貴重な意見交換の場となっています。数人に対応する庭木の剪定・除草などは、まさに一致団結の様相です。

【センター長 伊藤さん】

病院の付き添い、傾聴を主に受けています。自分が大病をしたし、又、家族の付き添いをしたこともあるので、その時のことが少しは活かせるかと病院介助をしています。経験したことは決して無駄とは思いません。無理をしないで自然体で寄り添っています。教わることが多く、勉強になります。

【ボランティアスタッフ 古矢野さん】

「ふらっと立ち寄りサロン」では多くの方と出会い、楽しいひとときを過ごしています。ボランティアセンターには様々な相談事があり、その原因も多様です。地域住民の理解と協力が支えとなり、維持されていることを痛感し、やりがいもあり、活動は楽しいです。

【ボランティアスタッフ 肥田さん】

大野中地区のみなさんの困りごとをお手伝いしています

つどう

地区内住民から困りごとの相談を受け、スタッフで対処方法を考えます。

つながる

スタッフが一致団結して、困りごとのお手伝いをしています。

つたえる

・説明会を開催し、スタッフを募集。
・スタッフ宛に「ボラセンだより」を月1回発行し、活動内容を報告しています。



スタッフ募集の説明会の開催



スタッフ打合せ



庭木の剪定



センター長 伊藤さん



「ボラセンだより」発行

大野中地区 居場所づくりのお手伝い

- ・地区社協事業 「ふらっと立ち寄りサロン」へ協力
- ・「健康麻雀教室」開催



「ふらっと立ち寄りサロン」



「健康麻雀教室」開催



これまでの経過

- 平成25年 地域福祉推進会議を開始。「ボランティアセンター」の開設の検討を開始。
- 平成26年 「田名ボランティアセンター」「鶴沼地区ボランティアセンターささえ」を視察。第1回ボランティア講座開催。同時に車いす操作の研修会。
- 平成27年 第2回ボランティア講座、ボランティア説明会、コーディネーター研修会開催。
- 平成28年4月1日 「おおのなかボランティアセンター」開設。
- 平成29年 社協事業「ふらっと立ち寄りサロン」の開催が年6回から年12回に増加。これに伴い、共催する地区内ボランティアグループの負担軽減のため、事業への協力を開始。
- 令和元年 「ふらっと立ち寄りサロン」の参加者からの要望により、初心者向け「健康麻雀教室」の開催を開始。

基本情報 令和2年10月1日現在

人口：62,536人 小学校：5 中学校：2 年少人口率：11.9% 高齢化率：26.8%
民生委員・児童委員：現員数73人（定員数73人）うち主任児童委員：現員数3人（定員数3人）
自治会数：33

住民福祉活動の拠点づくり

背景、課題、ニーズ、内容

今や少子化も高齢化も、日本全国の課題になっています。そのような現状もふまえ、大野南地区において市民の立場でできることは何か？行政の福祉、地域団体や福祉団体の活動の隙間を埋める役割（手段）として、「地域の拠点づくり（福祉の小舟）」の推進に取り組むことにしました。拠点づくりの推進は、目的ではなく、あくまでも手段と考え、以下の目標を掲げて取り組んでいます。①顔の見える関係から支えあう関係を作る事、②困りごとの相談から解決へつなげられる道筋を作ること、③一人ひとりにやさしい「ケアシティ」を作ること、④地域で何か役に立ちたいと思っている皆さんの活動の場づくり、としました。

現在（令和3年1月現在26か所設置）

携わっている方の声

大野南地区地域福祉推進委員会は、15名の各種団体推薦委員と5名の公募委員の20名で始まりました。最初の2年間は、各委員の「福祉」に対するイメージのすり合わせから始まりました。現状の見える化のために福祉地図の作成や地域のバス視察などを行いながら、委員の思いを一つにすること、あるべき姿の共有のため、丁寧な話し合いを繰り返しました。委員の気持ちを一つにできたことで、その後のサロン立ち上げを一丸となってできたこと、ボランティアとしてかかわる人たちにも思いが伝わりました。（高齢者サロン推進委員会委員長）

サロンの場所が上り坂で見通しの悪いところに立地しているため、高齢者の徒歩では無理ではないかと不安に思っていました。ところがはじめてみるとスタッフの努力もあり大盛況。担い手も参加者と一緒にゲーム等に没頭します。

ある時、道で高齢の女性と挨拶を交わすと「素晴らしいサロンを立ち上げて頂きありがとうございます。」とお礼を言われました。私は女性に「いつも参加して頂きありがとうございます。」と心からお礼を申し上げました。（サロン担い手Aさん）

これまでの経過

- 平成26年 6月 「大野南地区地域福祉推進会議」設置
※グループ別ワークショップ・地区内バス見学・社会資源地図作りなど。
- 平成27年 4月 地区内4拠点（サロン）の検討開始
- 平成28年 谷口（2月）・大野南（9月）・中和田（10月）・南新町（29年1月）4か所立ち上げ
- 平成29年 5月 「高齢者サロン推進委員会」に組織改編
- 平成30年10月 「おでかけサロンマップ」作成
- 令和 2年 3月 「サロン通信創刊準備号」発行
- 令和 2年 1月 「いきいきサロンのトリセツ」発行
- 2月 「サロン通信第1号」(地区社協だよりと合併号) 発行

基本情報 令和2年10月1日現在

人口：77,515人 小学校：6 中学校：3 年少人口率 13.1%
民生委員・児童委員：現員数80人（定員数 84 人）うち主任児童委員：現員数 4人（定員数 4人）
高齢化率：20.4% 自治会数：32



元気に体操！ 楽しく合唱♪



サロンマップを持って出かけ



ボランティア講座 全4回開催

- 平成28年 2月 傾聴講座① ～温かな聞き手を目指して～
- 平成28年 7月 体操お手本教室
- 平成28年12月 AED・救命救急講習会
- 平成29年 3月 傾聴講座② ふだんのおしゃべり 見直してみませんか？



サロン運営委員向けの研修講座を企画実施して地域での福祉活動に活かしています。ボランティア講座をきっかけに地域での福祉活動の参加を呼びかけています。



ボランティアセンターあさみぞ（地域活動拠点「麻溝ふれあいの家」外観）

ボランティアセンターあさみぞ

背景、課題、ニーズ、内容

地域の方々の「ボランティア活動をしたいのだけど、きっかけがない」、「将来、ひとりで生活する事になった時に話し相手が欲しい」といった声を聴き、ボランティア活動がしたい人と、お手伝いを必要としている人をつなげるため、平成26年に「ボランティアセンターあさみぞ」を開設しました。

2回の移転を経て現在は、地域の空き家を活用した地区社協の地域活動拠点「麻溝ふれあいの家」で、毎週水・金曜日の午前10時から正午まで開所し、ボランティアスタッフが相談対応等を行っています。

お話し相手、将棋・囲碁の相手、庭の草取り・低木の枝切り、ゴミ出し、登下校の見守りなど、様々なニーズにお応えしています。

ボランティアを依頼できるのは、地区在住の高齢者・障がい者等と福祉施設等ですが、ボランティア・コーディネーターとも、地域の状況を把握している地元の方で行っており、困っている方を身近な住民同士で支えあう事を目指しています。（ボランティア登録者 74名）



マスコットキャラクター「あさボラくん」

携わっている方の声

開設当初は少人数だった担い手も、地域の皆様のご理解のもと70人ほどになりました。

また、個人・施設・団体での話し相手や将棋の相手、庭の草取り、区内養護学校の登下校の見守りなど、幅広い要望に無料で応え好評を得ています。

今後も、さらに多様な要望にお応えできるボランティアセンターを目指します。

【追切センター長】

「今日は新たな活動依頼があるかな？」センターに向かう途中、こんな思いが頭を過ぎります。そうした中、技能実習生として来日中のベトナム人女性3名が、ボランティア活動をしたいとの事からボランティアに登録され、スタッフとして作業や事務仕事の手伝い等に活躍してくれています。おかげでセンターが以前に増して明るくなりました。

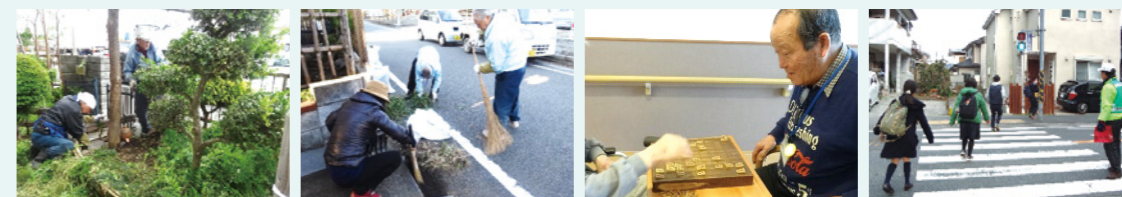
【ボランティアスタッフ・コーディネーター 本多さん】

令和元年の台風15号で庭の花桃の木が倒れ、敷地内とはいえ80歳過ぎの私と孫2人の我が家では困ってしまい、地域包括支援センター（高齢者支援センター）に相談に行った所、ボランティアセンターを紹介していただきました。

さっそく相談に伺うと、快く下見にも来てくださり、チェーンソーなどで持ち運びできる長さまで切ってください、本当に助かりました。

【利用者 進藤さん】

「地域の皆様の安心・安全、**ふ**だんの**く**らしを**し**あわせに」をモットーにして、ちょっとした“困りごと”をお手伝いし、福祉活動を展開・推進しています。



庭の草取り・低木の枝切り・将棋・囲碁の相手・登下校の見守り など

これまでの経過

- 平成24年 地域福祉推進会議を開始。
- 平成25年 「ボランティアセンターあさみぞ」開設準備。
- 平成26年 区内高齢者施設（あさみぞホーム）の地域交流スペースを利用し、「ボランティアセンターあさみぞ」開設。
- 平成27年 地域包括支援センター（高齢者支援センター）内に「ボランティアセンターあさみぞ」移転。
- 平成28年 マスコットキャラクター「あさボラくん」作成。
- 平成30年 活動拡大のため区内の空き家を地区社協地域活動拠点「麻溝ふれあいの家」として利用開始。
拠点内に「ボランティアセンターあさみぞ」移転。

基本情報 令和2年10月1日現在

人口：17,866人 小学校：2 中学校：0 年少人口率：12.9% 高齢化率：22.7%
民生委員・児童委員：現員数19人（定員数19人）うち主任児童委員：現員数2人（定員数2人）
自治会数：23

安心して暮らせるまち「あらいそ」

背景、課題、ニーズ、内容

高齢者が安心して暮らせるまちづくりを目指して「見守りステーション」がスタートしました。

また、日常生活でのちょっとした困りごとをすみやかにお手伝いする「ちょこっとサポートしたい」も活動中です！

●見守りステーション
日常的なさりげない見守り活動を通じて、高齢者の方に見守られている安心感を持ってもらい、孤立の防止や顔の見える関係を作ることができました。これからは地域全体で見守り活動を行い気になる情報を民生委員、自治会役員、地域包括支援センター（高齢者支援センター）に伝える仕組みを作っていきます。

●ちょこっとサポートしたい
庭の草むしり、買い物代行、ゴミ出しなど1年間110件を超える地域の困りごとをお手伝いしてきました。月に一度の定例会では、サポーターの皆さんが、いきいきと活動の様子を報告してくれています。これからも周知活動を行い、もっと多くの方にご利用いただきたいと思えます。
【安藤地区社協会長】

携わっている方の声

●見守りステーション
お子さんが独立しご夫婦だけになった方へ、声かけや携帯での安否確認を行い、交流が生まれました。近くに身寄りのない高齢者は、今後地域の方とのつながりが大切になってくると感じています。自治会の方にもご協力いただき、安心して暮らせる新磯を目指していきます。

【坂井代表】

●ちょこっとサポートしたい
庭の草むしりを1時間ほどで終え、依頼者から「見違えるようにきれいになったわね、ありがとう」このような言葉をいただき、作業を終了した達成感と共に充実した一時を味わえるこの瞬間が私の宝物になっております。日常生活のちょっとした困りごとを手助けさせて頂く事で、地域の方々の繋がりを広めていくことが出来れば幸いです。
【鈴木コーディネーター】

●ちょこっとサポートしたい
地域に住んでいる中で、ちょっとした困りごとを抱えている方が多いと感じています。そのニーズに応える、「ちょこっとサポートしたい」の活動に携われることが嬉しいです。活動をする中で、依頼者の方からの「ありがとう」という言葉が、幸せであり、活動にやりがいを感じる瞬間です。
【野頭コーディネーター】



いつも気にかけてくれているので、安心できます。これからもずっと見守っていてね！

【見守り対象者Fさん】

ちょっとした困りごとをすみやかにお手伝いいたします！



草むしり



買い物代行



ゴミ出し

新磯地区社会福祉協議会
ちょこっとサポートしたい

子どもが物を盗んで、買い物に行けなくて、悲しかったな...
電球が切れちゃったけど、一人では交換できない...

「ちょこっとサポートしたい」は新磯地区にお住いの、高齢者世帯や子育て世帯の日常生活でのちょっとした困りごとを、速やかにお手伝いする活動です。

活動内容
ゴミ出し、庭の草むしり、電球交換、買い物代行、重たい物の移動

上記以外のお困りごとも、まずはご相談ください！

ご利用料金
★ゴミ出し・・・1回100円
★30分以内・・・300円
★60分以内・・・500円
※60分を超えた場合は上記の内容で加算させていただきます。
※上記は、サポーター1人当たりの料金です。
※料金は活動終了後、直接サポーターにお支払いください。（領収書をお渡しします）

ご利用相談窓口
☎070-2263-3010
☎070-3542-3010
電話受付・活動時間：月～金曜日 午前9時～午後5時

活動の様子
買い物代行の様子

ご利用された方の声
お庭をきれいにしてもらって助かりました！まだ頼みたいわ♪

こんな時は、ちょこっとサポートしたいにご相談ください！



このユニフォームが目印です♪



コロナ禍でも、よりよい活動を目指して「傾聴」の勉強会を行いました！

ちょこっとサポートしたいのチラシです

これまでの経過

- 平成26年 地域福祉推進会議を開始。
- 平成28年 「新磯見守りステーション」活動開始
- 令和元年 「新磯ちょこっとサポートしたい」活動開始

基本情報 令和2年10月1日現在

人口：13,309人 小学校：1 中学校・1 年少人口率：13.3% 高齢化率：27.1%
民生委員・児童委員：現員数15人（定員数15人）うち主任児童委員：現員数2人（定員数2人）
自治会数：33



サポートセンター楽らく

背景、課題、ニーズ、内容

相模台地区では、平成23年から地域福祉推進会議を立ち上げ、地域の方々の抱える福祉課題を発見、解決する「しくみ」作りに取り組みました。その一環として平成27年に地区内全域でアンケートを実施し、ボランティア活動と幅広い世代の日々の困りごとについてお聞きしました。その結果約2,300の回答を得、機会があれば日中の話し相手、ごみ出し等のボランティアができると答えた方が全体の10%、さらに連絡先まで記入いただいた方が約150名おり、逆に依頼したい方は全体の5%で、内容は力仕事、一人では困難なことが中心でした。

この結果をもとに、お互いさまのまちづくりに向けボランティアセンターの設置について本格的に検討を始め、平成28年11月に地区ボランティアセンターと地域のふれあいの拠点を兼ねた「サポートセンター楽らく」を開所しました。

携わっている方の声

地域のちょっとした困りごとを解決する拠点としてサポートセンター楽らくを開設し、様々なお困りごとに対応して4年になります。

楽らくでの高齢者同士の交流が増え、地域の絆も深まりました。超高齢化社会を迎えるにあたりさらにご活用いただきたく、認知度を上げていきたいと考えています。

【地区社協 小川会長】

楽らくは開所4年目を迎えました。地域の方々の交流の場としては一日20名位の人たちが立ち寄られています。また困りごとの依頼はご本人から、地域包括支援センター（高齢者支援センター）から、ケアマネジャーさんからと様々ですが、近頃は子育て家庭へのサポート依頼が関係機関から入ります。サポーターは交流会や情報交換を大切にしています。

【原 裕子 楽らくセンター長】

楽らくは名前の通り楽しいところ。お茶を飲みながらみんなと話ができ、友だちも増えました。行く所があるということは生活の句読点になっています。街を歩いていると、楽らくのスタッフや知り合った人から「こんにちは。元気ですか」と声をかけられ、これがまた嬉しい。心配事や困りごとにもすぐに相談でき、頼もしい場所です。

【利用者Iさん】

楽らくデータ（年間平均）

来所者 延べ3,486人
相談件数 41件
対応件数 30件



楽しいお喋り時には受付の方も加わり盛り上がり、男性の来所者が多いのが自慢です！



情報紙を発行し周知に努めています。現在第9号！



活動が増加すれば課題も増えます。月一回運営委員で「センター会議」を開催し、課題の検討・解決に努めています。子どもの学習支援・居場所「楽らくキッズ」が生まれました。

子育て世代を応援する「楽らくキッチン」も計画！

第3土曜には歌声サロンを開催しています。毎回大盛況！

楽らくミニ情報

平日毎日開催の拠点は珍しい取り組みということで、市内のみならず全国から視察がみえました。

楽しみながら活動費を確保。地区内のおまつりで焼き鳥やPRのブースを出店！

サポーター交流会も大事な活動。お茶菓子をいただきながら楽しく情報交換しています。

活動における悩みの解決！サポーターの勉強会も開いています。



これまでの経過

- 平成23年 地域福祉推進会議を開始。
- 平成26年 事業指定が終了し、地区内各団体から1名推薦をいただき「いきいきサポート委員会」を設置。
- 平成27年 地区自治会連合会のご協力により「福祉活動及び福祉課題に関するアンケート調査」を実施。配布数12,000部、回答数2,353件。
- 平成28年 11月相模台まちづくりセンター近隣に「サポートセンター楽らく」を開所。開所日時は月曜～金曜日の午前10時から午後2時、民生委員や楽らくサポーターが受付や給仕を担当。困りごとの相談ができるだけでなく、どなたでも気軽に集ってつらいで過ごせる場所と口コミで情報が広がり来所者が増加。サポーター登録者数は70人（令和3年1月時点）。
- 平成29年 利用者数が増えてきたことや場所が遠くて通えないといった声から増設を求める声が出た。
- 令和元年 「サポートセンター楽らく」から派生した子どもの学習支援・居場所「楽らくキッズ」を開始。

基本情報 令和2年10月1日現在

人口：44,973人 小学校：4 中学校：3 年少人口率：10.3% 高齢化率：28.9%
民生委員・児童委員：現員数55人（定員数58人）うち主任児童委員：現員数3人（定員数3人）
自治会数：27

広げる地域の絆 ～支え合い（愛）相武台の見守り活動～ だれもが集える拠点 ～ひだまり相武台～

背景、課題、ニーズ、内容

～支え合い（愛）相武台の見守り活動～

相武台地区は2つの大きな団地と駅前の住宅地があり、相模原市の中でも高齢者が多い地域です。

平成22年3月に地域課題の解決に向けて地域福祉推進会議が行われ、その中で地域での孤立や近隣関係の希薄化を背景に、孤立しがちな一人暮らしの高齢者への見守りにテーマを絞り、平成23年に見守り活動「支え合い（愛）相武台」をスタートさせました。「支え合い（愛）相武台」は近所の方が月1回程度、高齢者宅に訪問し、声かけを行い、近隣で高齢者を見守る住民主体の活動です。日常の見守り活動とおして、孤立を防ぎ、お互いに声を掛け合い、助け合う関係を地域の中に築くことを目的としています。

活動では見守りボランティアと民生委員・児童委員、地域包括支援センター（高齢者支援センター）が連携している仕組みになっています。見守り活動の中で気づいたことや相談したいことなど、各機関に連絡ができる体制をとっています。

～ひだまり相武台～

ひだまりが設置される以前、相武台地区は常設の地域福祉拠点の必要性が検討されてきました。平成27年に地域住民の方から所有しているマンションの一室を地域交流の拠点として提供したいという申し出があり、地区社会福祉協議会で活用方法の検討を始めました。提供者の「誰もが気軽に集い、交流することができる地域拠点を作ってほしい」という想いを念頭に、地区社協で内容の検討を重ね、平成28年にひだまり相武台を開所しました。

ひだまり相武台では、地域のサークルなどに部屋を貸し出しているほか、毎月2回、地域の方が自由に来ることができる場所、「ひだまりカフェ」を開催しています。ひだまりカフェでは、コーヒーなどの飲み物が提供され、それぞれが自由に過ごせる空間として運営をしています。

携わっている方の声

～支え合い（愛）相武台の見守り活動～

見守りを希望されるほとんどの方が高齢で一人暮らしの方ですので、月1回の見守りでも楽しみにしておられます。

訪問を重ねるごとに本人の体調のこと、ご家族のことなどをお話いただいています。健康面について変わったことがあれば民生委員・児童委員の方や地域包括支援センター（高齢者支援センター）に連絡をして対応できるように連携をとっています。

その他日常生活の困りごとや地域との繋がりは、地区社協やボランティア団体、サロン、老人会、自治会、公民館などの情報を紹介しています。

訪問時にお聞きしたことや気になったことは関係者以外にお話しできませんので活動の内容が良くわからないと言われることもあります。これからも見守り活動体制の充実や利用者の発掘等の課題に取り組み、活動を広めていきたいと思えます。

【委員長 小林 勉】

～ひだまり相武台～

「ひだまりカフェ」は女性の参加が多く、おしゃべりなどで交流を深めていますが、男性の参加が少なくいかにして参加していただくかが課題の一つです。

ミニ講座では読書会や絵画教室・作品作りなど行っています。終わった後の「笑顔」や「楽しかった」の言葉にホッとさせられます。

夏休みには小学生を対象に宿題の一助になればと、読書感想文の書き方や絵画教室などを開催し、高齢者から子どもまで幅広い方に利用していただいています。

担い手も少なく大変なことも多々ありますが、利用者が帰る時の「ありがとう」という一言にまた奮起させられます。

コロナ禍で今は中止をせざるを得ないことも多く、感染拡大防止に努めておりますが一日でも早く再開できることを願うばかりです。

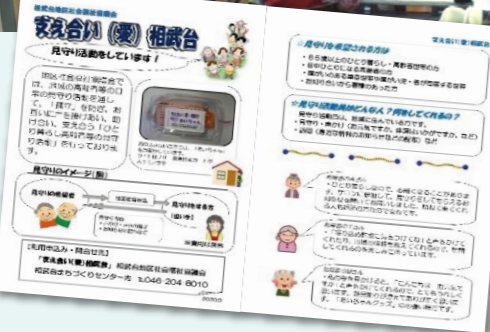
【委員長 砂村 久三子】

これまでの経過

- 平成22年 3月 地域福祉推進会議で地域福祉課題について話し合う
- 11月 話し合いを重ね、一人暮らしの見守りにテーマを絞る
- 平成23年 2月 他地区事例を参考に見守り活動の具体的な内容を決める
- 6月 サロンや地域の団体に見守りの希望者・ボランティアを募る
- 12月 見守り活動開始（定期的に研修会も開催）
- 平成27年 地域住民の方よりマンションの一室を地域交流の拠点として提供したいと申し出がある
- 9月 拠点の内容について検討をスタート
他地区の拠点を見学、他事例を参考に拠点の方向性を検討する。提供者の想いを汲み、誰もが気軽に来ることができる福祉拠点を目指す
- 平成28年 6月 プレオープン
- 10月 ひだまり相武台 開所式

基本情報 令和2年10月1日現在

人口：19,399人 小学校：3 中学校：2 年少人口率：9.1% 高齢化率：34.1%
民生委員・児童委員：現員数29人（定員数29人）うち主任児童委員：現員数2人（定員数2人）
自治会数：32





暮らしやすい地域社会をめざして

背景、課題、ニーズ、内容

東林地区は福祉コミュニティ形成モデル事業の指定を受け、高齢者等の「居場所」づくり、福祉活動の担い手の育成、近隣の仲間づくり、支援の仕組みづくり等の課題解決に向け検討を重ね、2つの取り組みをすすめています。

◇東林いこいの広場

高齢者や地域のみなさんが、食事やコーヒーを楽しみながら、気軽におしゃべりできる交流の場です。

小さい子どもたちやそのお母さんたちの利用も増え、3世代交流が実現しています。

地域の無償ボランティアスタッフで運営しており、単なる食堂ではない、ボランティア活動の場となっています。

◇東林いきいき塾

地域活動の担い手づくり、身近な地域福祉の学びの場づくりを行っています。

- * ボランティア養成講座
- * 地区の福祉施設見学会
- * 福祉講座「あなたのチカラを地域で活かそう」
- 「がんと向き合う」等
- * ヤング防災ボランティア体験教室（上記写真）、他

携わっている方の声

東林地区の福祉コミュニティづくりは地域の人々が「出かけて、集まって、話して、聞いて」と、誰でも参加し易いやり方です。小さな子どもから高齢の方まで緩やかなつながりで暮らしやすいまちづくりを目指していきます。皆様の参加をお待ちしています。

【阿部会長】

男性ボランティアの会として、東林いこいの広場の立ち上げから携わっています。毎月3会場、合計7回のボランティアは大変ですが、来場者のうれしそうな顔を見た時や、感謝の言葉をかけてもらうことがやりがいとなっています。

【ボランティアスタッフ中山さん】

東林いこいの広場では、多数の方が話し合いながら、賑やかに食事をする様子を楽しめました。最近引越してきたばかりで、近所にこのような場があることに感謝です。ボランティアの方々の丁寧な対応にも心が温まりました。

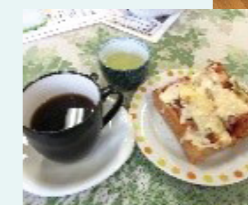
【利用者の女性】



明るい雰囲気にも元気をもらえる！
みんなで食べるって楽しい！



友達もできたり、
スタッフの方も気さくにはなしかけてくれてうれしいね！



ボランティアをしたいけど、
何ができるのか？
わかりやすく勉強中！

これまでの経過

- 平成18年 地域福祉推進会議を開始。
- 平成20年 「東林いこいの広場」開始。（3月）
くぬぎ台活動施設、東林間児童館、南自治会館、翠ヶ丘自治会館、松南自治会館でモデル的にスタート。その後、くぬぎ台活動施設（毎週木曜）、東林公民館（第4火曜）の2か所で開催。
「東林いきいき塾」を開講。
「いきいき生活する知恵を身につけよう」というスローガンのもと開催。
- 平成21年 「東林いこいの広場」ふれあいセンター（第1・3金曜）追加。

基本情報

人口：41,698人 小学校：3 中学校：2 年少人口率：9.9% 高齢化率：26.4%
民生委員・児童委員：現員数59人（定員数59人）うち主任児童委員：現員数3人（定員数3人）
自治会数：15

ICTを活用した新たな地域のつながりづくり

新型コロナウイルスの影響で、人と人の接触を制限せざるを得ない状況が続いていますが、地域活動をどのように進めればよいのでしょうか。

ICT化を活用したオンライン環境では、「離れた人とグループで話ができる」、「場所や時間に制約されない」、「顔が見えるので雰囲気伝わる」、などのメリットがあり、非接触型でつながることができます。

また、そうした技術を積極的に取り入れることで、コロナ終息後も、今までの生活課題を解決することができます。

- ①足が不自由になってサロンに通えなくなり、閉じこもりがちになってしまった
- ②スーパーが遠く、買った荷物を持って帰れない
- ③時間が無くて研修会に参加できない
- ④視察や交流会を企画したくても、バス代等高額な費用がかかる

こうした多くの課題も、オンラインなら、コロナ終息後も活用することができます。どこにいてもつながれる。そんな新たなつながり方を実践してみたいでしょうか。



- ①足が不自由になってサロンに通えなくなり、閉じこもりがちになってしまった

足が不自由になっても、オンラインで参加の機会が作れます。



- ②スーパーが遠く、買った荷物を持って帰れない

買い物代行の場面では、映像を確認しながら商品を選ぶことができ、自分で買い物している気分を味わうことができます。

スーパーまでの道中も映像をオンにすれば、一緒に散歩している気分も味わえます。



- ③時間が無くて研修会に参加できない

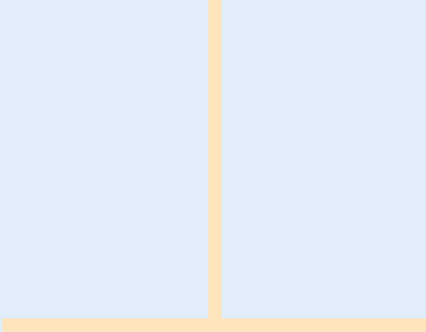
会場までの移動が無くなり、気軽に自宅から参加できるなど、時間と場所の制約が少ないため、より参加のハードルが低く、効率的な研修ができます。



- ④視察や交流会を企画したくても、バス代等高額な費用がかかる

地区社協間での交流もできますし、遠く離れた先進地域の取り組みを、開催経費をかけずにオンライン視察することもできます。





おわりに

それぞれの地区が自分たちで困りごとを発見・共有し、解決に向けて地域住民が一丸となって取り組む、コミュニティ形成事業。この冊子を作成するにあたり改めて活動を振り返ることができ、地区の良さに気づき、お互いがいい刺激になったことと思います。

今は大変な状況ではありますが、住み慣れた地域にて再び笑顔で集まれることを心待ちに、各地区同士でさまざまなアイデアを共有し、相模原市をより一層安心して暮らせる地域へと繋げられたらと願います。

また、こちらの冊子はコミュニティ形成事業について紹介し、理解を得ることを目的としたものです。地域と協働した活動推進の参考にご活用いただけたら幸いです。

